

## 私は成長した

活動先：NPO 法人 菜の花

クラス：原田 正樹 先生

### 1. 自分の成長と気づき

サービスマーケティングを履修して、幾つもの気づきを見つけられることができた。その中でも、自らの成長に繋がる大きな気づきを1つ見つけた。それは、「コミュニケーション」の重要性についてである。これは、何かをやるうとするには、欠かせないものであり、当たり前のものである。必ず存在するであろう、この「コミュニケーション」が如何に大切であるかを学ぶことができたのだ。このレポートでは、私が、「コミュニケーション」の重要性に気づくまでの、過程を述べていきたいと思う。

大学に入学して、一年が経ち、私は、サービスマーケティングに参加した。この頃の私は、人と話すことが苦手で、言葉を慎重に選んでは口にしていたので、ものすごくマイペースな人だと思われていただろう。実際、行動するのも、ものすごく遅く、同じグループの友人には、少なからず迷惑をかけていたと思える。そんな私も、無事に前期で行う活動を経て、後期に入ることとなった。ちょうど、この頃から、私の中で少しずつ心境の変化が見られたと思う。それは、ほんの少しずつの変化だった。授業の中で、前期での活動の感想を言い合い、お互いの報告をする場があった。順々にクラスメイトが感想を述べていく中、自分には、何も積み重ねたモノを見つけることができなかった。何の為にもならない感想を言ってしまう自分に、周りとの劣等感があつたのだ。つまり、人に迷惑をかけている自分に嫌気が差してきたのである。それから、日に日に、自分の愚かさを知っていくようで、生きていることが嫌になるまでに至った。当然、冗談ではなく、とことん自分が嫌いになり、消し去りたかったのだ。しかし、親から貰った大切な身体を、粗末に扱うことなどできない。私は、本当に苦しかった。死にたくても死ねず、生きようともしたくない。こんな気持ちを持っている人間を探そうとしたが、身近にいるはずもなく、周りの友人たちは、大学生活を楽しそうに過ごしている。それを見て、さらに嫌になる自分。この繰り返しは、まさしく地獄のようであった。そんな廃人となっている私に、1つの考えが閃いた。それは、自分の稼ぎだけで生きるというものであった。私は、奨学金を希望していて、毎月5万円の支給を受けているが、それに加えて、両親からも5万円の仕送りを貰っていた。私は、親からの期待に答えられる程、できた人間なわけがないので、自分がしっかりと働かないなら死んでしまっても仕方がないだろうという気持ちになった。閃いてから両親に電話をするまでは、一瞬であった。私は、父親に電話をして、これから仕送りでお金は振り込まないでくれ、と頼んだ。父親も、どういう理由かもわからなかったので、ゆっくりと理由を話した。父親は、わかった。と言ってくれたので、私は、その了承を聞いたときから、生きる為ならば何でもやれると思ったのだ。それからの私は、動きに動いた。自分がしっかりとしないと生きられないので、人と関わるのが、苦手だとか思う暇も与えずに、バイトの面接を受け、仕事も一番になるまで働いた。友人との関係も、今まで何もせずに、

馬鹿にしていた友人に対して、自分の意見を言えるようになった。急に変わった私に、対して友人たちは、すぐには対応してくれなかったが、時間が経つにつれ、私のことを理解してくれる友人が増えていった。私は、協力してくれる友人がいるなんて、思ってもみなかった。今まで、協力することはあっても、されるとなると遠慮していたので、友人たちのサポートの心強さが、私には何よりも嬉しかった。

上記が、私が1年の中で感じたものだが、これに基づき、後期の私には、喧嘩が絶えなかった。それは、言葉の選択の不注意から始まるものであった。今まで、自分の主張ができなかった私は、無理して意見を述べていたので、言葉は荒く、尖っていた。喧嘩をしながらも、少しずつ学んでいけていると思うが、人に応じて、様変わりする「コミュニケーション」は、難しさの極みである。私は、この「コミュニケーション」を鍛えたい。鍛えていくことで、自分の成長にも繋がり、これからの社会を渡り歩くのに役立つと思う。今後の目標としては、先があまり見えてこないが、誰よりも濃い人生を歩んでいけるように生きたいと思った。上記が、私が体験した、成長と気づきの内容である。このきっかけを活かして、さらに飛躍できるように、精進したい。

## 2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

活動を通して、見えてきた課題は、認知度を高めることにあると思う。NPO というのは、地域に溶け込んで、地域を支える、非営利組織団体である。NPO は、地域に受け入れてもらえるような存在でなければならない。しかし、現状は、拒まれてはいないものの、少し不審に思われているような印象を受ける。したがって、地域の人々に情報を発信する努力をして、より多くの地域の人々に NPO の仕事内容や、熱意、意気込みを知ってもらえるようにすべきではないかと感じた。1年間を通して、NPO がどんな仕事をしているか、実際に見て、学んできた。私たちは、「特定非営利活動法人、菜の花の家」で活動してきた。地域の間人がどう思っているのかは知らないが、笑顔に溢れる場であったことに間違いはない。6日間の活動で、仕事は、大変だったものの、スタッフさんの優しさ、利用者さんの笑顔に触れ、生きる力を分けてもらえたように感じた。

NPO は、個人経営で成り立つものがほとんどである。それに加えて、非営利団体であるために、資金がないため、なかなか行動的になれないのである。上記で述べた、地域に情報を発信する努力をするのは、自分たち学生なのかもしれない。私は、現在、福祉職に就こうとは思っていない。しかし、日常的な会話の中で、大学でどんな勉強をしているのか？と聞かれたら、NPO で学んできたこと、地域にあまり知られていないということを伝えていきたいと思った。

## 3. おわりに

サービスマーケティングでは、自分の思う通りに活動しました。それをサポートして下さったスタッフの皆さんには本当に感謝しています。さらに、NPO 法人菜の花の家には、6日間も実習させてもらえて幸せでした。スタッフの方々や先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。